

豊能町小中一貫教育等充実検討委員会 第3回教育環境部会 議事録要旨

- 1 日時：平成27年11月24日(火) 午後2時30分から午後4時40分まで
- 2 場所：豊能町役場 本庁 会議室
- 3 次第
 - 1) あいさつ
 - 2) 「小中一貫教育について」の資料説明
 - 3) 意見交流
 - 4) その他
- 4 出席者：委員23名（代理含む）、事務局8名

議事

- 1) あいさつ（会長）
- 2) 小中一貫教育について

（事務局）

（これまでの教育環境部会で出た意見を取りまとめた資料について説明）

（会長）

このとりまとめ資料について、足りない所や欠けている所があれば意見をお願いします。

（事務局）

先日、全国の小中一貫校の小規模校が集まるサミットが京都大原で開催され、東能勢小学校と東能勢中学校の校長先生が参加されたので、その感想を報告していただきます。

（校長からの報告）

- ・全国から全校生100名以下の小規模で小中一貫教育を進めている学校関係者が集まっていた。視察した学校は全校生75名の小規模校で、地域とのつながりが濃い地域で、4・3・2年制のシステムで運営されている学校であった。クラス替えがないと人間関係が固定化するのではないかということについては、他府県から参加された方は、他校との交流や様々な文化交流を通じて対応しているとのことであった。
- ・視察校は、校長は1人で1～9年生までみており、前期と中期と後期に分けている。1～4年生は私服で小学校という感じ。5年生からは中学校と同じ50分授業で制服もある。5・6年生は小学校免許を持っている教員が教えることが多いが、中学校の教員も教科担任制で入っている。クラブ活動の選択肢が狭くなることは全国でも同じ悩みであった。そんな中、吹奏楽部を4年生から9年生までで行うなど、どの学年からクラブ活動を始めるのか、文化系なら早い学年から始められて、体育系なら体力がついてから始めるなど、様々な工夫をされていた。

(委員)

保護者は情報が少なく、イメージがわからない。今の報告を聞いて、前期、中期、後期の意味がわかったが、ソフト面を知らないと、この先行き詰まるのではないか。そうなると、どちらが良いとも言えないし、何を言ったらよいかわからないということになるのではないか。6・3制はわかるが、そうでない場合に見たり聞いたりして情報を得ないと、今の状況で何も言えない。保護者にどのタイミングで何を聞けば良いのかを考えている。

(委員)

今まで、何回も会議に出席しているが、これでどうしていくのかと聞かれても分からない。先生方がサミットに行くことも知らなかった。「細郷学園（池田市）」と異なるパターンも知らない。大原の学校ではゼロ歳児から入っていると聞いて、東能勢中学校とふたば園が交流しているイメージであるとわかったが、保護者に情報が少なく何も知らないところに、どうまとめて保護者に話をしているかわからない。前回、小中一貫教育を保護者がどのように感じているのか聞きたいとのことであったので、東地区では、これまでの会議の報告と、東地区で出た意見、細郷学園の視察、自分の感想等を書いたものを保護者へ見せて、意見を聞こうと思っている。

(委員)

私の小学校の保護者から出た意見を報告します。

- ・小中一貫教育になるとしたら、制服、体操服、給食、通学などについて、どうなるのか知りたい。
- ・もう少し先を見据えた報告がほしい。
- ・役所の都合に左右されず、時間をかけてもよいから当事者の声も聞いてほしい。
- ・近くでは「とどろみの森学園（箕面市）」が参考になるのではないか。
- ・決定したことを報告するのではなく、意見交流をしながら考えていってほしい。
- ・中学校はもっと東西の交流を行うことを期待している。
- ・クラブ活動にもっと活気が出るようにしてほしい。
- ・少人数の特色を活かす学校づくりをするほうが良いのではないか。
- ・少人数のデメリットは、いつも同じ顔ぶれやクラブ数が少ない。
- ・少人数のメリットは、いじめや勉強についけいけない子どもに対して、一人ひとりに目が行き届きやすい。
- ・多人数のデメリットは、勉強についていけない子どもが放置されやすい。いじめに気付きにくい。先生が毎日の業務で精一杯になる。
- ・多人数のメリットは、クラブが充実、クラス替えにより様々な友達にふれあえる。
- ・現在、少人数での授業が充実していないのなら、小中一貫教育を推進しても同じではないか。
- ・東西をひとつにする小中一貫教育の学校にするなら、通学が遠くなればスクールバスが必要となる。早退の時にスクールバスで送ってもらえるのか。車を運転できないと、送迎はできない。
- ・小中一貫教育は東西バスの交通も整えたいと考えておくべきである。
- ・安全に通学できる環境づくりをしたうえで、小中一貫を考えるべき。

- ・学校の中身を充実する環境を整えたいうえで、どうするのかを考えるのが自然の流れではないか。
- ・豊能町は田舎なので、通学路には防犯カメラが必要である。

(委員)

先ほどの意見と重複する部分もあるので、それ以外の意見を言います。まず、小中一貫教育を行うことのメリット・デメリットを教えてください。ふたば園では、小学校や中学校の現状を知らない保護者が多い。5年後を想定しているのであれば、幼稚園等の保護者にもわかってもらうことが重要ではないか。先を見て、子どものために一番何が良いのかを考えてほしい。親や町、教育委員会の都合ではなく、子ども達のためにできることをサポートできる環境になればよいのではないかなど意見があった。

(委員)

保護者の方のまとめた意見を事務局に渡すので、ホームページに掲載してもらえるのか。

(会長)

会議録の中で出た意見として、ホームページに掲載できるのではないか。

(事務局)

議事録の要旨は、会議の時に前回の会議録を配布し、整理ができればホームページに掲載して一般の方にも閲覧できるようにする。保護者の方でまとめていただいた意見については、そのまま町のホームページに掲載するのは難しい。議事録は事務局の方で、出された意見をまとめて作成している。何か不足しているものがあれば、意見を出していただければ修正していく。

(会長)

今、皆さんの意見を聞いていると、保護者への情報が少ない。何のためにどのように議論していくのかぼやけかける。基本はわからない。なぜそうするのか。いったいどのような形になるかわからない。中学生よりは、小学校やふたば園の保護者の方が情報を求めている。東地区では、そのようなことであったかと思う。これから教育環境部会からカリキュラム検討部会へ移行する段階だが、その中身を同時に周知する必要がある。事務局としては対応できるか。

(事務局)

小中一貫に関する学校関係者の研修がよくあるので、校長などや事務局も参加している。この場で、保護者の小中一貫に関する課題、不安、わからないことなどを聞かせていただいたので、次はカリキュラム検討部会で学校の先生が集まり、小中一貫教育の中身を考えていく。先生方がこの場での意見をどう受け止め、豊能町の教育をレベルアップするにはどうすればよいのかという思いで、カリキュラム検討部会で検討していただきたい。資料の2と3を見てもらってイメージしていただければと思う。資料の2の課題では、カリキュラム検討部会での検討事項になるようなもので、教育委員会の課題になるようなことの意味をまとめたもので、資料の3は学校の先生方に考えてほしい課題としている。今年度のカリキュラム検討部会は3回の予定なので、課題の整理までしかできない。課題の対応をまとめるには

時間を要するのではと思っている。今年度は最後に小中一貫教育推進のための検討課題として整理し、次年度で課題の解決について検討していきたい。この資料についても何か加える所があれば、ご意見をいただきたい。

(委員)

豊能町の保幼小中学校の教職員は、夏の研修や授業研究会で年に何回か交流をする。小中学校の教員と一緒に教科の勉強や、授業を見に行ったりしているので、大きな市よりは心の垣根なくカリキュラムの話ができると思う。それぞれの学校の特色があることもわかるので、その点も踏まえ話をし、豊能町の学校づくりに努力をしたい。豊能町には、小中両方の学校に勤務した教員もたくさんおり、保幼小中学校の交流もよく行っているため、その点は強みであるため、そこは大事にして動いていきたい。

(会長)

豊能町の強みはそこにある。各校の特色も大事したいということ。

(委員)

学校から出席している立場として、先生方から会議で何が決まったのかよく聞かれるが、どう答えたらよいか難しい。教育環境部会は、わからないことなどの意見を出し合う場としてあり、カリキュラム検討部会は、それをどうするのかを話し合う場という理解でよいのか。

(会長)

豊能町の良い所や特色などを踏まえて、カリキュラムでどのようにやっていくのかを、カリキュラム検討部会で今年度3回開催し、細かな所は来年度も続けるような話である。ハードの考えの案が資料にあり、そのどれかになると思うが、その方向性を決めていく時期に来ていると思う。どんな形になるのかは、財政のこともあるので、どこまで実現できるのかは別の問題である。

(委員)

カリキュラム検討部会では、例えば学校規模を大きくすることについて、メリットやデメリットをまとめていくことになるのか。

(会長)

まとめの資料の2番で出された課題でどのようなことがあるのか。具体的に指導や組織上の問題で考えていくのが1回目。課題をもう少し検討していく中で、再配置のパターンでみて、難しいパターンとか簡単にできるパターンとかの話が2回目ぐらいで出るのではないかと。豊能町が目指す小中一貫教育のねらいをどこに持っていき、一番重要であると思う。学校の良さを継承とか、子ども達が大人になったとき、どんな大人になってほしいかと思う。そのために培わなければならない力、学力だけではなく心持ちなどの人格形成やリーダーシップをどう育てるのか。その点をカリキュラム検討部会で議論をしていただければと思う。保護者から環境面で給食を何とかしてほしい意見があったが、温かい給食を食べることでどんな心持ちを育てるのかなどを検討していく会になる。

(委員)

再配置も含めて検討していると思っているが、再配置をすることは決まっているのか。ハードにばかりいかないようにとのことだが、ハードとソフトはセットなので、小中一貫校か隣接型かでカリキュラムの考えが全く異なるのでハードも大事。例えば、基本はこの形で考え、どうするのかでないと議論は進まないと思う。私は、大前提として、校長1人の小中一体型の学校はつくりたくない、隣接型がよいと考えている。西に1校、東に1校での提案がされたと思っている。また現状どおりの案もあったと思っているが、私の中では戸惑っている。

(会長)

再配置をすることは決まっていない。

(事務局)

資料のまとめを見ていただき、会でも出された意見を事務局でまとめたものであるが、これを認めていただけるのかどうか意見をいただきたい。その中では、再配置案を提示している。西地区と東地区に1小1中と書かれてあるが、形はまだはっきりしていないので、豊能町の小中一貫教育の基本方針と配置案を早く検討するようにという内容となっている。具体的な案を提示して、意見をもらうのは次の段階と考えている。

(委員)

この状況で進めていけば、保護者の固まった意見は出ないと思う。方向性の必要はわかるが、その前に保護者にこのようなこともあるのですよというものを示さないと、保護者は先が見えてないから意見もないので、子どもにしてあげたいことや、こんな学校になってほしいというものが描けない。このまとめを見せたら、決まったことに対して、意見を言うだけで良いものにならないと思う。出来あがったものを下ろされても改革はできない。常に改革し、変えていける状態を常につくって物事を進めてもらわないと、出来あがったものを形だけ通すことのないようにしてもらいたい。この方向性の資料を保護者に示した時に、あんなものがある、こんなものもある、というものを示して保護者に意見をもらわないと、良いものができない。結局、町が勝手にやればよいとなる。そのような時間も組んでもらわないといけない。

(委員)

この3回だけでは、意見を言う時間が足りないと思う。京都での小中一貫の研究会を事前に周知してもらえれば、行きたい方もいたと思う。今日もこれまで、教育委員会事務局が大半話して、保護者が口を開くことができなかった。これでは、PTAの方にあまり意見を言わせないで町主導でやっていると言われても仕方がないと思う。

(委員)

なんのために今まで出てきたのかという思いでしかない。いろんなパターンを見たり聞いたりしたこ

とを、保護者に伝えるとイメージもわくののだが、これだと、完全に町で決めたことになっていくのかなという思いだ。このまとめで良いですかと聞かれて、「はい」と今言うべきなのか、とも思う。

(委員)

私は、このまとめのようなことは思っていない。話し合いの時間がないので、あらかじめ作っておくのはわかるが、意見はこうだ、まとめはこうだとは言っていない。固定化しており、これに対して何か言う時間もないのでいいですと言わざるを得ない。

(委員)

保護者の方にいろいろな話が下りるのはこれからだと思う。どこかのタイミングで保護者に説明しないといけないが、まだ柔軟性がある時期で、いろんなことを考えているところであり、今なら言えると思う。これで行きますということなら、そんな話もできない。今の段階ならこれで良いと手をあげられない。ある程度保護者にも話を聞いてもらい、いろんな意見が出てまとまらないから役員にまかせる、ということなら賛否を出せるが、今の状況ではできない。もっと時間が必要と思う。

(委員)

前回、事務局がトップダウンでなくビルドアップで進めていくと言っていたので、そこは覚悟がないとできない。それには時間がかかる。小中一貫を進めるには小学校と中学校の先生でしっかりと論議をしないとけない。それぞれにやってきたことがあり、そこを解くにはエネルギーがいる。保護者と教員が集まる場は他ではあまりないと思う。この会をここで終わり、カリキュラム検討部会にバトンタッチするのは難しいと思う。カリキュラム検討部会は少しずつ並行してやればよい。

(委員)

保護者の方へのお知らせをする形をとるのか。

(委員)

学習会の機会があれば、こんな形もあるというように、もっと広く浸透できるだろうし、それは教員にも同じことだと思う。小中一貫校をモデルと言っているが、どこの学校もモデルといえる学校はない。みんな試行錯誤でやっていると思う。その一部分だけ見て良いと思っても、いろんなことがある。そのことはこの場ではあまり出てこない。そのことも含めて、メリット、デメリットを聞ければいいと思う。

(会長)

今年度で解決できる問題でもない。あと2年ぐらいかけてモデルを検討することも必要。それがないと保護者に提示できるものはできないと思う。

(委員)

P T A役員だけで話をする場を設けるとかはできないのか。これだけの人数がいて、数少ない発言の

機会だけでは、不完全だと思う。

(事務局)

P T A役員に決めてもらい、責任を負ってもらおうというような会ではないことを知っていただきたい。委員の方の個人的な意見をもらえればよい。もっと意見が必要だと思われるところはアンケートなどをされている。委員の方に責任をとは一切思っていない。この場は、委員の皆さんの率直な意見を聞く場として設けた。委員の皆さんの思いや考えなど、様々なことをこの場で勉強させていただいている。教育委員会では、最初に方向性を提示し、進めていくわけだが、まとめにもっと課題があるなら修正していただき、まとめの文章についても意見をいただければと思っている。カリキュラム検討部会でも、今後の検討課題をまとめていただきたいと思っている。

(委員)

保護者委員は、各学校の意見をこの場で言わないといけないという意識は持っていると思う。それなのに責任を感じなくていいと言われては、何のためにこの場に来ているのか、お飾りで集まっているのかということになる。

(委員)

東地区の形は、保護者全員に関わることで、いろんな方の意見を聞いて、知ってもらわないといけないと思っている。私たちがこんな会議に出たと報告をしたら、保護者のいろんな思いが出てくるかなと思ってやっている。それが責任を負わなくていいとなると何のために来ているのかよくわからない。もう少し保護者の方にも情報があって、いろんなことを聞いた中で進めるべきではないか。

(会長)

保護者や教員にも情報が少ない。実際に現状維持も含めて、小中の一貫した教育ができるかどうかの検討をしないといけない。カリキュラム検討部会でももう少し中身の所をしっかりとやらないといけない。今の現状でもできる課題。小中一貫の教員が完全に連携した形でできる課題。建物が同じになったらできる課題。それらを分かれて検討する必要があるのではないか。このような形だとこの課題はここまで解決できるなどのオプションを示せることもあると考える。それと、保護者だけで集まり話ができる場が持てないかも検討課題である。

(委員)

先生方が言えないことがたくさんあると思う。先生は教育委員会の下にいるのだから、上に向けてあまり意見を言えないのでは。特色という言葉がよく書いてあるが、その特色が何なのかも示されていない。本来なら2回目の会議までに、各学校の良い所や少し懸念される所をもう既に出されていないといけない。それに対して、どうするのかを話す場だと思う。材料が揃っていない。でも教育委員会ではこの日までにここまでもっていききたい。この場にいる人の気持ちがついていかず、バラバラできてしまっている。最初に配布された資料では、東地区、西地区に小中一貫の学校をつくった方が良いと最初に書いてあった。私はそこを読んで、やるんだなと思って、何を保護者に聞けばよいのかと事務局に尋ねた

ら、とりあえず西地区で小学校3校で良いのか、1校で良いのかを聞いてくださいとのことだったので、そのことだけでアンケートをとった。はっきり言って、そうなっていたら、そうなんだからいい。まだ**子ども**が小学校に入っていないなら、小中一貫ならそうなんだからいい。先日の会議で、意見の1つでも実現できたらと言われたのを聞いて、意見をいくつ出しても1つしか実現できないなら、意見を言う必要もない。あまり言っても負担になるだけだと思った。今日のまとめの資料を見て、そうするんだなと思った。先ほどの小中一貫の小規模サミットの話があったが、それは学校向けの話で、私立の学校でも小中一貫校はたくさんあるので、その良い所を取り入れればよい。本当に聞きたいのは子ども達がどう思っているか。そこに通っている先生や保護者の意見はいつでもよいと思う。ただ、通うのに安全かどうか。数年たって統合したときに、バラバラになっていた子どもが一緒になる時のケアをどのようにしてもらえるのかの心配しかしていない。反対意見もたくさんあるが、その点だけきちんとしてもらえれば、後は、豊能町という畑で育っているもので、そんなに大きく変わらないのではないかと思っている。

(事務局)

保護者への説明の前の段階であると思っている。通常、教育委員会で案をつくり、学校や地域にある程度の形を見せて回り、説得すると思うが、もともとは平成22年の答申を実行しようとしている。その時に西地区では1小1中が望ましいということであったが、その頃に想定されたとおり児童生徒数が減ってきたので、平成26年度に教育委員会でその答申を再度検討し、進めていくことでまとまった。今後、先生方に学校のことを考えてもらう時に、保護者の方の様々な意見や課題をまとめるという思いであった。それらを踏まえて今後どのように進めていくのかを決めていきたいと考えている。カリキュラム検討部会は今年度の3回だけでまとまるものでもないで、どのようなことをしないといけないのかの課題をまとめる程度だと思う。1年か2年はかかるかもしれない。

(会長)

教育環境部会としては今日の3回で終わる。今日の意見をきいて、きちんと意見が聞けたのかわからない。今のところ保護者の皆さんに提示できる情報もまとめもできていない。とりあえず、カリキュラム検討部会に引き継ぎ、そこで具体的なイメージや皆さんが課題と思っていることについて先生方で検討したうえで、皆さんに再度提示をし、意見を聞く場面を設けることができるかどうか事務局と協議したいがよろしいですか。会議のやり方についても検討したい。全体で集まらなくても、小グループで意見が出るような会の方がよいかもしれない。

(委員)

地域の課題が異なるので、できれば西地区と東地区に分れて話せば内容が充実するのではないかとと思う。

(委員)

東西地区でそれぞれの意見の聞いておく方がよいのではないかと。

(会長)

分けたままではない。分科会があって全体会ができたらと思う。カリキュラム検討部会では、分かれて検討するようにしたい。

(委員)

この資料のまとめは保留となるのか。

(会長)

推進する場合のメリット・デメリット、推進しない場合のメリット・デメリットがあるので、現状維持の場合もある。ただ、教育委員会の方では平成22年に方針を出しているので、検討はしなくてはいけない。ただ、この会には決定権はない。この会は、これで行きましょうというものではないということ。カリキュラム検討部会では、現状維持のメリット・デメリット、小中一貫のパターンのメリット・デメリットを出してもらいながら、カリキュラムの検討をしていただきたい。

(委員)

このような会を来年度も開くのであれば、PTA役員の交代時期にあり、引き継ぎもあるので早めに知らせてほしい。

(事務局)

来年度の会の持ち方はまだ決まっていないが、ご協力をお願いすることもあるのでと考えている。よろしくをお願いします。

2) その他

(今後の予定)

- ・第1回カリキュラム検討部会 12月21日(月) 開始時間は後日連絡する。